

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学概論 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3134
2. 授業担当教員	近藤 重晴		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	臨床心理学として、その成り立ち、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 6. スクールカウンセリングについて理解をし、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に目を通し、疑問点を明確にする。 ・授業内容から、適宜小テストを行う。 適宜、授業内容をまとめる課題レポートを提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 下山晴彦編『よくわかる 臨床心理学』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患・発達障害を含めた心理的問題を抱える人の心理的理解 2. 各発達段階における心理的課題と障害の理解 3. 代表的な心理臨床の理解 4. 心理アセスメントの考え方と方法の理解 5. 主要な心理的援助の理論と技法の理解 6. スクールカウンセリングについての理解 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 レポート課題 40% 授業への参加 30% 発表 30% 以上で評価を行う。		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は、全体像が分かり、読みやすいものを採用したので、しっかり勉強して、基本的な知識を身につけること。 ・臨床心理学は、カウンセラーなどを目指す心理学部の学生には必ず役立つはずである。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	オフィスアワーは講義時間の前後で受け付けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の解説) 臨床心理学とは何か① 「(1) 臨床心理学の構造と歴史」	事前学習	教科書 p2 から p17 の臨床心理学の全体構造を読んでおく。
		事後学習	臨床心理学の全体構造とカウンセリング、心理療法、臨床心理学についてまとめる。
第2回	臨床心理学とは何か② 「(1) 臨床心理学の構造と歴史」	事前学習	教科書 p18 から p25 を読んで、事前に世界と日本の臨床心理学の歴史について調べておく。
		事後学習	世界と日本の臨床心理学の歴史をまとめる。
第3回	臨床心理学とは何か③ 「(2) 基本理論」	事前学習	教科書 p26 から p31 を読んで、事前にナラティブ・アプローチ、社会構成主義、エンパワメントについて調べておく。
		事後学習	ナラティブ・アプローチ、社会構成主義、エンパワメントをまとめる。
第4回	臨床心理学とは何か④ 「(2) 基本理論」	事前学習	教科書 p32 から p39 を読んで、事前に実証性、科学者－実践者モデル、生物－心理－社会モデル、コラボレーションについて調べておく。
		事後学習	実証性、科学者－実践者モデル、生物－心理－社会モデル、コラボレーションをまとめる。

第5回	問題を理解する（アセスメント） （1）目的と方法	事前学習	教科書 p 40 から p 45 を読んで、事前にアセスメントとは何か、ケース・フォーミュレーション、初回面接について調べておく。
		事後学習	アセスメントとは何か、ケース・フォーミュレーション、初回面接をまとめる。
第6回	問題を理解する（アセスメント） （2）データの収集方法①	事前学習	教科書 p 46 から p 53 を読んで、事前に面接法、観察法、質問紙法、投影法について調べておく。
		事後学習	面接法、観察法、質問紙法、投影法をまとめる。
第7回	問題を理解する（アセスメント） （2）データの収集方法②	事前学習	教科書 p 54 から p 61 を読んで、事前に知能検査法、神経心理学的検査、脳画像について調べておく。
		事後学習	知能検査法、神経心理学的検査、脳画像をまとめる。
第8回	問題を理解する（アセスメント） （3）データの分析技法	事前学習	教科書 p 62 から p 67 を読んで、事前に応用行動分析、機能分析、生態学的アセスメントについて調べておく。
		事後学習	応用行動分析、機能分析、生態学的アセスメントをまとめる。
第9回	問題を理解する（アセスメント） （4）異常心理学①	事前学習	教科書 p 68 から p 83 を読んで、事前に異常心理学とは何か、精神障害の診断分類、精神障害と薬物療法、不安障害、身体症状と解離性障害について調べておく。
		事後学習	異常心理学とは何か、精神障害の診断分類、精神障害と薬物療法、不安障害、身体症状と解離性障害をまとめる。
第10回	問題を理解する（アセスメント） （4）異常心理学②	事前学習	教科書 p 84 から p 95 を読んで、事前に摂食障害、性障害・性同一性障害、パーソナリティ障害、気分障害、統合失調症について調べておく。
		事後学習	摂食障害、性障害・性同一性障害、パーソナリティ障害、気分障害、統合失調症をまとめる。
第11回	問題を理解する（アセスメント） （5）ライフサイクルと心理的問題①	事前学習	教科書 p 96 から 105 を読んで、事前に生涯発達の視点、乳幼児期・児童期・思春期の心理的問題について調べておく。
		事後学習	生涯発達の視点、乳幼児期・児童期・思春期の心理的問題をまとめる。
第12回	問題を理解する（アセスメント） （5）ライフサイクルと心理的問題②	事前学習	教科書 p 106 から p 119 を読んで、事前に青年期・中年期・老年期・家族の発達と心理的問題について調べておく。
		事後学習	青年期・中年期・老年期・家族の発達と心理的問題をまとめる。
第13回	問題を理解する（アセスメント） （6）発達過程で生じる障害や問題①	事前学習	教科書 p 120 から p 127 を読んで、事前に知的障害、ASD、LD、AD/HD について調べておく。
		事後学習	知的障害、ASD、LD、AD/HD をまとめる。
第14回	問題を理解する（アセスメント） （6）発達過程で生じる障害や問題②	事前学習	教科書 p 128 から p 133 を読んで、事前に虐待、不登校、いじめの実態について調べておく。
		事後学習	虐待、不登校、いじめをまとめる。
第15回	問題を理解する（アセスメント） （6）発達過程で生じる障害や問題③	事前学習	教科書 p 134 から p 139 を読んで、事前に非行、ひきこもり、自殺の実態について調べておく。
		事後学習	非行、ひきこもり、自殺をまとめる。
第16回	問題に介入する（1）理論モデル①	事前学習	教科書 p 140 から p 149 を読んで、事前に統合的視点、クライアント中心療法、精神分析について調べておく。
		事後学習	統合的視点、クライアント中心療法、精神分析をまとめる。
第17回	問題に介入する（1）理論モデル②	事前学習	教科書 p 150 から p 161 を読んで、事前に分析心理学、行動療法、認知行動療法について調べておく。
		事後学習	分析心理学、行動療法、認知行動療法をまとめる。
第18回	問題に介入する（1）理論モデル③	事前学習	教科書 p 162 から 171 を読んで、事前に家族療法、コミュニティ心理学、ナラティブ・セラピーについて調べておく。
		事後学習	家族療法、コミュニティ心理学、ナラティブ・セラピーをまとめる。
第19回	問題に介入する（1）理論モデル④	事前学習	教科書 p 172 から p 177 を読んで、事前に動作法、森田療法、内観療法について調べておく。
		事後学習	動作法、森田療法、内観療法をまとめる。

第20回	問題に介入する(2)介入技法①個人I	事前学習	教科書p178からp185を読んで、事前に遊戯療法、箱庭療法、夢分析、フォーカシングについて調べておく。
		事後学習	遊戯療法、箱庭療法、夢分析、フォーカシングをまとめる。
第21回	問題に介入する(2)介入技法①個人II	事前学習	教科書p186からp191を読んで、事前に自律訓練法、暴露法、系統的脱感作法について調べておく。
		事後学習	自律訓練法、暴露法、系統的脱感作法をまとめる。
第22回	問題に介入する(2)介入技法①個人III	事前学習	教科書p192からp197を読んで、事前に催眠療法、認知リハビリテーション、アサーション・トレーニングについて調べておく。
		事後学習	催眠療法、認知リハビリテーション、アサーション・トレーニングをまとめる。
第23回	問題に介入する(3)介入技法②集団・社会	事前学習	教科書p198からp207を読んで、事前に集団療法、危機介入、コンサルテーション、心理教育、SSTについて調べておく。
		事後学習	集団療法、危機介入、コンサルテーション、心理教育、SSTをまとめる。
第24回	問題に介入する (コミュニティにおける相談活動①)	事前学習	教科書p208からp219を読んで、事前にスクールカウンセリング、特別支援教育、教育相談、学生相談、被害者相談について調べておく。
		事後学習	スクールカウンセリング、特別支援教育、教育相談、学生相談、被害者相談をまとめる。
第25回	問題に介入する (コミュニティにおける相談活動②)	事前学習	教科書p220からp227を読んで、事前に異文化間カウンセリング、EAP、デイケア、ターミナルケアについて調べておく。
		事後学習	異文化間カウンセリング、EAP、デイケア、ターミナルケアをまとめる。
第26回	臨床心理学研究①	事前学習	教科書p228からp237を読んで、事前に臨床心理学研究の課題、質的研究、量的研究、質的研究の技法①事例研究、質的研究の技法②フィールドワークについて調べておく。
		事後学習	臨床心理学研究の課題、質的研究、量的研究、質的研究の技法①事例研究、質的研究の技法②フィールドワークをまとめる。
第27回	臨床心理学研究②	事前学習	教科書p238からp247を読んで、事前に量的研究の技法①アナログ研究、量的研究の技法②効果研究、研究の発展①認知心理学研究、研究の発展②神経心理学研究、研究の発展③社会心理学研究について調べておく。
		事後学習	量的研究の技法①アナログ研究、量的研究の技法②効果研究、研究の発展①認知心理学研究、研究の発展②神経心理学研究、研究の発展③社会心理学研究をまとめる。
第28回	社会的専門性①	事前学習	教科書p248からp259を読んで、事前に社会のなかでの臨床心理活動、臨床心理学関連の組織、社会的責任①専門職、社会的責任②倫理、社会的責任③関連法規について調べておく。
		事後学習	社会のなかでの臨床心理活動、臨床心理学関連の組織、社会的責任①専門職、社会的責任②倫理、社会的責任③関連法規をまとめる。
第29回	社会的専門性②	事前学習	教科書p260からp281を読んで、事前に職域と社会的連携、職域①教育、職域②医療・保健、職域③福祉、職域④司法・矯正、職域⑤産業について調べておく。
		事後学習	職域と社会的連携、職域①教育、職域②医療・保健、職域③福祉、職域④司法・矯正、職域⑤産業をまとめる。
第30回	まとめ	事前学習	授業全体の振り返りを行いまとめる。
		事後学習	まとめた内容を発表する。